

日本校を30年超継続・テンプル大
トップに聞く



イングラート総長

モーガン理事長

初の米国大学日本校として1982年に開校したテンプル大学ジャパンキャンパス(TUJ)が昭和女子大(東京・世田谷)の敷地内に校舎を移した。来日したテンプル大学(TU、ペンシルベニア州フィラデルフィア)首脳に米国の高等教育について話を聞いた。

教室全体で議論促す

パス内で異文化交流を体験できる。学生は教師からだけでなく学生同士でも学ぶことができ、米国流の双方向型教育も評価された。クリティカルシンキングの技能やコミュニケーション能力を育て、グローバルな視点を与えている。

多数巻き込む努力 ■ 政府の投資、将来に寄与

文化があることも一因だ。教員を尊敬、尊重する文化は素晴らしいが、教室での活発な議論を抑制する作用があるのかもしれない。だから、TUJのように多様な国籍の学生が学び合う環境が大切なのだ。

ポイント 幹部が資金集め したたか米国大

1970年代は予算の70%程度はあった州政府の拠出が10%台に低下したという。州立でも自前で資金を集めないと立ち行かない。大学の苦難は

許諾番号30073696日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。